

事業所職員向け 放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			法令等で規定されているスペースは確保できているが、利用人数や活動内容によっては、若干、狭く感じることがあるので、公園へ行くなどして分散化している。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			法令等で規定されている職員配置は満たしているが、児童に対する療育や機能訓練等を進めていくうえで、職員の強化を図れると良いと考えている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		建物の構造上、完全なバリアフリー化は難しいが、出入口に手すりを設置している。また、利用状況を職員が把握し、歩行等に不安がある児童など介助が必要な場合には、個別に応じた配慮を行い、安全には十分に気をつけている。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			朝礼や昼礼時、各ミーティング等の時間を使って、日々の療育を振り返り、改善等に繋がるように話し合っている。また定期的に行われる職員会議、虐待防止研修等にて、児童との関わり方、環境設定などの課題について情報共有を行い、業務改善に繋げている。なお、その結果について議事録を作成し、LINE等で共有を行っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			年1回、保護者向けに自己評価表の実施や半年に1回以上のモニタリング等の面談時等で保護者から意見等をいただき、その都度、改善に向けて事業所内で検討・協議を重ねている。また、「ぷらすupの今後を考える会」の社内研修の中でも協議し、児童にも保護者にも安心していただけるよう改善に向けて進めていきたいと考える。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			ホームページ上で公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	第三者評価は行っていない。ただ、ぷらすupだより等の広報活動に力を入れたり、相談支援専門員や関係機関の来訪やボランティア等の受け入れ、地域住民に行事に参加してもらうなど、風通しの良い環境となるよう心がけている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			支援ミーティングや社内研修等の中で、児童を支援していくうえでの問題点や検討事項等の話し合いを行っている。また、雇用形態を問わず全職員が社内外の研修に参加できる機会の設定、出前講座の活用、専門職の充実など、より質の高い療育支援の提供を目指し、他職種が連携することで職員が学ぶ機会を確保している。

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			保護者との定期的な面談や必要に応じた相談等により、保護者や本人からのニーズを確認し、課題については個別支援会議等で検討したうえで作成している。また、必要に応じて学校や相談支援事業所など関係機関とも連携しながら、作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			アセスメントツールやテキスト等を参考にしたり、機能訓練担当職員による専門的なアセスメントにより、実施している。今後も引き続き、よりよい支援が出来るよう、ツール等の検討をしていきたいと考えている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			保育士・児童指導員、機能訓練担当職員等がチームとなり、各職員の得意分野を活かして、プログラムを構成している。また児童が活動に取り組めたかどうかの振り返りを行い、改善点を反映させる等、日々、アップデートしている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			児童の発達状況に合わせて、自立課題、運動活動、性教育学習、外出活動、季節行事や出前講座などいろいろな活動を提案し、組み合わせることで、同じ活動が続かないように工夫している。またボランティアや地域の方に協力をお願いし、職員以外の方とも関わられるようなプログラムも提案している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			休日や長期休暇中は、外出やクッキング、野球教室、職場見学等を行い、平日は、自立課題や性教育活動、創作活動等を行うなど、利用時間や児童の成長のペースに合わせて、個別や集団の活動機会を設ける等、活動が固定しないよう工夫している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			全児童が短時間でも個別、集団活動に取り組めるよう活動部屋や活動時間を決めて行えるよう作成している。また、児童の直近の様子等をみながら、個別に配慮が必要な場合も含めて、配置等を考えている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			朝礼と昼礼、支援ミーティング内で行っている。朝礼等に活動予定表、支援の内容等について確認し、詳細については活動担当ごとに確認を行っている。特に外出活動時にはマニュアルに沿って、計画書を作成し、児童の安全や療育の目的等を周知している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			送迎後の車内や記録入力の日数などに、各担当間で振り返りを行っている。職員間で難しい場合には、管理者に報告している。なお、翌日の朝礼や昼礼等でも振り返りを行い、議事録等で情報共有している。

	チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			HUGシステムを活用し、その日の支援について記録を入力し、基本的には毎日保護者へ公開している。また、児童の様子など気がかりな点等について、業務の振り返りや支援ミーティング等にて確認し、検討・改善している。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			少なくとも半年に1回以上、モニタリングを行い、計画を策定するために個別支援会議を開催し、計画の見直し等を行っている。
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	○			利用時間や児童の体調等に合わせて、ガイドラインに沿った形で、創作・余暇・自立活動等、複数組み合わせた療育支援を行っている。
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			児発管と担当が出席することが出来ている。また可能な限り、機能訓練担当職員も参画できるようにしている。
	21 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○			学校へ行事や下校時間等の確認を行い、送迎等の対応を行ったり、他の児童との兼ね合いで送迎が遅延する場合には事前に学校へ連絡を行っている。また送迎時の児童を受け入れる際には、その日の学校での児童の様子や体調等も確認している。
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか			○	現在、医療的ケアが必要な子どもの受け入れ実績はないが、受け入れる場合には、保護者や主治医等と連携して支援する必要があると考えている。なお、病院等で機能訓練を受けておられたお子様については、保護者の了解のもと、病院等との情報共有を行ったり、必要に応じて意見書を貰う等の対応をしている。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			保護者や相談支援事業所等へ確認し、必要に応じて情報共有を行っていきたいと考えている。
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○			移行する場合には、担当者会議等に出席し、相談支援事業所や保護者、卒業後の進路先等と情報共有している。
25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			専門機関が主催する研修に参加したり、児童の状況に応じて、その都度、専門機関等から助言をいただきながら支援している。また研修を受講した職員は、職員会議等で報告を行うことで、全職員と知識の共有を行っている。	

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	○			新型コロナウイルスが第5類に変わったこともあり、長期休暇期間中に児童クラブでの交流会や市内の高校の野球部にご協力をいただき、野球教室を通して交流を図る機会を設定することが出来ている。また近くの公園や公共施設を利用することで、地域の子どもたちと接する機会を設けている。
	27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか	○			療育支援部会など関連する協議会には参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			送迎時やHUGシステムを利用し、保護者へ利用日ごとに活動内容について発信している。また必要に応じて、電話や面談等で共通理解を図っている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			今年度は保護者向け研修会を開催し、「ほめるコツ」について学んだり、保護者同士で日々の悩み等の意見交換できる機会を設定することができたと感じている。来年度以降も継続して取り組めるよう検討している。
保護者への説明責任	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			契約時に説明を実施したり、不明な点については随時、説明するようにしている。また支援内容については保護者と話す機会を設けたり、システム(HUG)等を活用し連絡している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			定期的な面談以外でも、必要に応じて保護者から相談のあった場合には、適宜、対応し、相談内容に応じて相談日を設けたりなどしている。また、職員間で情報共有を行い、検討して適切に対応している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			前年度よりも保護者向けのセミナーや保護者参観等、保護者が参加し、保護者同士が交流できる機会を持つことができています。アンケート等も実施し、気軽に参加してもらいやすいよう、今後も引き続き、交流できる機会を検討していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			ご意見箱の設置や苦情解決体制を整え、苦情や問い合わせ等があった場合には、マニュアルに従い検討し、対応している。また児童からの要望等については、利用時間中に返答するなどの対応をしている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			年3回、ぷらすupだよりを発行し、配布したり、HUGシステムにより活動予定の提示や行事等の活動結果について写真つきで報告を行っている。

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
等	35 個人情報に十分注意しているか	○			個人情報の取り扱いについては、会議等を通じて職員へ周知している。また、個人情報が記載された書類等については、鍵付きのキャビネットに保管するなど、取り扱いには十分注意している。
	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			児童や保護者に合わせて、写真やイラスト等を使って、わかりやすく説明するよう工夫したり、理解してもらえたかなど確認しながら意思の疎通を図っている。
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			ぷらすupだよりを地域住民の方に配布し、施設や活動について知っていただく機会を設けている。また出前講座等を利用して地域の専門職の方々に児童の活動に参加して頂いている。福井県内の施設を活用したり、職場見学や野球教室、ハロウィンやクリスマス等の季節行事等、ボランティア活動を募る等、外部の方にも協力を得ることができている。
非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			各マニュアルについては、施設内に設置しており、いつでも閲覧できるようになっている。もっと保護者に対して分かりやすい形で情報を発信していく必要性を感じているため、定期的に発信できるような方法を検討していく。
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			月1回の頻度で、行政等にご協力をいただき出前講座を活用しながら、災害教室や避難訓練などを毎月行っている。またその活動に合わせて、非常災害の発生に備え、消防署や警察署への見学も行っている。
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			新任者には、虐待や権利擁護に対する正しい知識を得て、児童と関わりをもてるよう、新任者研修内で虐待防止・権利擁護に関する知識を学ぶカリキュラムとしている。また年1回の虐待防止委員会の開催や年1回以上、全職員が社内外の虐待防止・権利擁護に関する研修等の受講している。
41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			現在、身体拘束を行う必要があるお子さまの利用はないが、日々の関わりの中で、小さな出来事が身体拘束へと発展していかないよう、虐待防止研修等で学んだことを職員間で共有し、お互いに留意し、関わっている。もしやむを得ず身体拘束を行う必要性が出てきた場合には、会議等で十分に検討し、利用者本人の生命や身体を保護するため緊急を要する場合に、切迫性・非代替性・一時性であることを条件に行うことを職員の共通認識とし、計画に記載する必要があると考えている。

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		○		現在、食物アレルギーのある子どもの利用はないが、受け入れる場合には、医師の指示書等をもとに保護者と相談しながら支援する必要があると考えている。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			ヒヤリ・ハットな事例があった場合、報告書に記載し、朝礼、昼礼時や職員会議等を通して職員で共有している。